



## 校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ②5

令和2年12月4日（金）

### 「高い目標」

最近、久しぶりにユーミンこと松任谷由美さんのメディアへの登場が多くなっていることに気づきました。ニューアルバムをリリースしたので、そのプロモーションなのかもしれません。

ユーミンと言えば、私たち世代の青春時代（40数年前！？）の1コマ1コマには常にユーミンの曲がセットであったと言っても言い過ぎではないくらいです。そのユーミンも何と66歳、ライバルと言われた中島みゆきが68歳、サザンオールスターズの桑田佳祐が64歳、小田和正にいたっては73歳です。60歳を越えた彼らが40数年前と変わらず、今なお、色あせることなく第一線で活躍していることはまさに驚愕です。彼らの才能と努力はどれほど凄いのかと思わずにはおれません。・・・と私は感慨に浸るのですが、きっと中学生や高校生のみなさんにとっては、知らない「おば（あ）さん？」「おじ（い）さん」かもしれませんし、「誰それ??？」という感じでしょうか。

出す「レコード」、出すレコードが全て大ヒットしていた、ユーミンがまさにスーパースターであった全盛時代、北海道札幌のある女子高校生は、いつも友だちに「私はユーミンを越える！」と言っては、友だちから「はいはい」と聞き流されて笑われていました。その女子高校生が、後のDREAMS COME TRUEのボーカル吉田美和でした。

今では日本のプロ野球選手が当たり前のようにアメリカのメジャーリーグを目ざし、これまでにイチローをはじめ60人以上の選手がメジャーリーグでプレイしてきましたが、そうした道を切り開いたのは当時の近鉄バッファローズの野茂英雄投手でした。彼の存在がなければ、今日のように日本のプロ野球選手が当たり前のように海を渡ってメジャーリーグでプレイすることはなかったのではないかと思います。

しかし、1994年にその野茂英雄投手が、アメリカメジャーリーグへの挑戦を表明した時、所属チームの監督をはじめ、メディアもこぞって「通用するわけがない！」「なんでアメリカのメジャーリーグ

なんかに行くんだ!？」と大バッシングを受けました。そんな日本国内で孤立無援状態の中、野茂投手は単身アメリカに渡り、その後12年間にわたってメジャーリーグ延べ9球団で活躍、メジャーリーグ通算123勝をあげ、ア・リーグ、ナ・リーグ両リーグでノーヒットノーランまで達成しています。

吉田美和も野茂英雄も、同時代の人にとって彼らの目標(夢)は、あまりにも大きすぎて、理解できなかったのだと思います。だから彼らの言っていることは、ただの大言壮語=「大ボラ」と感じられて笑ったり、バッシングしたりしたのでしょう。しかし、吉田美和も野茂英雄も、周りの人たちから笑われても、バッシングされても自分自身の(同時代の人々には理解できないほどの)高い目標(=夢)を掲げ続け、それに向かって凄まじい努力を続けたからこそ、その高い目標(=夢)を達成し、時代に名を残すスーパースターになったのだと思います。

高い目標(=夢)は、全ての人々が彼らのように必ずしも達成できるとは限りません。しかし、その高い目標(=夢)を掲げ続け、それに向かって努力し続けられない限り、その高い目標(=夢)が達成されることはあり得ません。そして、その高い目標(=夢)が仮に達成されなかったとしても、そのために努力し続けたこと、そのこと自体がその人自身の揺るぎない力となり、その人の生き方となり、充実した人生になるのだと思います。

今年、4年連続日本一(V4)を達成した福岡ソフトバンクホークスの王 貞治 球団会長が、チームの納会で若い選手たちに向かって次のように檄<sup>げき</sup>を飛ばしています。

「特に若い人たちは、・・・(中略)・・・上手にしてくれるわけじゃないんでね。監督、コーチは。自分が上手になるんだと。自分がね。自分が監督、コーチの意見を聴きながら、生かして、自分が上がっていきんだ、自分が上がっていきんだということね。人が上げてくれるわけじゃないんだと。

・・・(中略)・・・

我々プロは残念ながら余韻を楽しんでいる暇はない。今年終わったらすぐ来年のこと、今年良かった人はまた来年大変なんですよ。今年と同じようないい成績が出せるだろうか。今年抑えた相手の打者が自分をどれだけ研究してくるだろうか。今年打った投手がどれだけ研究して、自分に対して戦ってくるだろうかとか、そういう不安な気持ちはどんどん出てくる。でもそれを取り除くためには自分を高めるしかない。・・・(中略)・・・せっかくこの世界に入ったんだから、できなくてもいいけど、とにかく自

分の高い目標を立ててそれに向かって突き進むという人生を生きてほしい。2021年もしんどい年だ  
けど、最後にはやったと言える年になれるようにみんなで自分を高めましょう。」

宗高・宗中のみなさんにも、

「とにかく自分の高い目標を立てて、それに向かって突き進むという人生を生きてほしい。」

そう心から願っています。

校長 深瀬 信也